

氏 名	建部 智子
授 与 し た 学 位	博 士
専 攻 分 野 の 名 称	医 学
学 位 授 与 番 号	博甲第 5648 号
学 位 授 与 の 日 付	平成30年3月23日
学 位 授 与 の 要 件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	Anti-SS-A/Ro antibody positivity as a risk factor for relapse in patients with polymyositis/dermatomyositis (抗SS-A抗体は多発性筋炎/皮膚筋炎患者における再燃危険因子である)

論 文 審 査 委 員 教授 松川昭博 教授 岩月啓氏 准教授 西田圭一郎

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

炎症性筋疾患(IIM)では近年治療の進歩により高率に寛解を達成できるようになった一方で、再発を繰り返したり治療薬の減量が困難となる症例をしばしば経験する。既報では IIM の予後不良因子が報告されている一方、再燃危険因子を検討した報告は少なく、これまでに有意なものは明らかになっていないため、今回我々の研究を行った。方法としては、2004 年から 2014 年に岡山大学病院で多発性筋炎/皮膚筋炎に対する寛解導入療法を行い疾患安定化に到達した 50 名を対象に、患者背景、疾患関連因子、治療関連因子と再燃との関連を後ろ向きに検討した。症状安定化からの平均観察期間 685 日の間に 20 名に再燃を認め 5 名が死亡した。再燃群では非再燃群と比較して筋力低下の割合が低く、抗 SS-A/Ro 抗体の陽性率が高かった。多変量解析を行ったところ抗 SS-A/Ro 抗体陽性は再燃の独立した危険因子となった。抗 SS-A / Ro 抗体陽性は、多発性筋炎/皮膚筋炎における再燃予測の有用なバイオマーカーである可能性が示唆された。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

多発性筋炎 (PM) および皮膚筋炎 (DM) に代表される特発性炎症性筋疾患 (IIM) では再燃する患者も多いが、IIM の再燃危険因子は明らかになっていない。そこで、申請者は、2004 年から 2014 年に岡山大学病院で多発性筋炎／皮膚筋炎に対する寛解療法を行い、疾患定期に到達した 50 名を対象に、患者背景、疾患関連因子、治療関連因子と再燃の関係を後ろ向きに検討した。その結果、再燃群では非再燃群と比較して、筋力低下の割合が低く、抗 SS-A/Ro 抗体の陽性率が高いことを示し、多変量解析により抗 SS-A/Ro 抗体は再燃の独立した危険因子であることを見出した。再燃の定義や妥当性や、再燃の原因が筋疾患特異的でない可能性はあるものの、抗 SS-A/Ro 抗体陽性は、多発性筋炎／皮膚筋炎における再燃予測の有用なバイオマーカーである可能性を示した点は評価できる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。